

巻頭言

3月県議会を顧みて

惣津 律士

昭和32年度予算を審議する3月県議案は3月5日から18日まで開会された。本年度予算は所謂積極財政の方針が打出されて、道路及び水島港の整備が重点的に取上げられ、その他についても夫々積極的な色彩が見られた。代表質問及び一般質問通じて特色のある論戦は見られなかったが、畜産に於いては和牛振興とそれに関連した家畜取引等の流通面について活発な論議がくりかえされたのは注目に値するものがあつた。即ち和牛改良の面に於いては従来行き方から飛躍して、和牛の経済価値を向上せしめる方向を十分に考慮しての措置に力を払うべきであるとし、又今般の家畜取引法の制定に依る公正明朗なる近代的取引方法の強行が強調され、更に肥育地帯の設定、肥育経済の測定、それに関連した枝肉市場、冷蔵庫の設置に対する具体案の樹立まで議論が進められ、畜産経済安定への真剣な熱意が見られた事はけだし輝かしい成果と云えよう。

去る3月14日の毎日新聞の論説に於て、政府は畜産物の価格安定対策を急いで確立すべき事が力説されていたが、げに夫々の地域の条件に則した生産性の高い有畜営農組織の確立が要請せられている今日に於て、その達成に必要な消費流通組織の近代化と畜産物の価格安定対策が速急に進められねばならない事は申すまでもない。現在まであまりに放置され勝ち

であつて、畜産物の価格の浮動のしわ寄せが常に有畜農家にかかっているが如き現象はけつして、営農の安定化を望むべくもないものになっている。勿論私は畜産振興に必要な飼育技術の向上、飼料確保のための作付体型の改革、採草、放牧地又は林地の下草利用の高度化に伴う畜産収入の増大を図る事を農家に要請するものであるが、それにも増して、叙上の施策を私達の総意に於て実現させなければならない。

近代資本主義機構の中に於てたしかに畜産物の取引形態はあまりに複雑である。而し乍らその中に於て、有畜農民の経済を安定せしむべき機構を確立する事が何より必要である。これの実現には幾多の困難性を伴う事はもとよりであるが、時代はすでにその解決を刻々とせまりつつある現実をみるときに、畜産関係者は一段の自覚と努力の必要を痛感するものである。